

明治大学校友会 多摩支部会報

多摩支部広報 全国校友滋賀大会特集号 支部長 西山 強



写真提供一鈴木絃一氏 (日野)

懇親会撮影時に居合わせた多摩支部校友の皆様
(他の席に行かれており、写っていない校友も多くいます)

CONTENTS

- 全国校友滋賀大会に参加して・・・ 西山 強 (多摩支部長)
- 全国校友滋賀大会に参加して・・・ 江面利和 (日野地域支部)
- 絆を深めて・・・ 飯田光宏 (町田地域支部)
- 正に壮観な全国校友滋賀大会・・・ 高玉茂男 (三鷹地域支部)
- 懐かしの琵琶湖畔を訪ねて・・・ 山上雅隆 (八王子地域支部)
- 全国校友滋賀大会に参加して・・・ 守重芳樹 (立川地域支部)
- 参 考 資 料・・・ ご来賓ご挨拶等・・・付録 1～9

第51回・明治大学全国校友滋賀大会に参加して



東京都多摩支部長 西山 強 (昭36年 工)

「明治はひとつ、びわ湖に集う紫紺の旗」をコンセプトとした、この大会に全国5.4支部・海外2支部（韓国・台湾）から約1,200名の人々が参加し、当多摩支部からも24名の参加を頂き盛大に実施されました。先ずもって参加して頂いた方々に厚くお礼申し上げます。楽しかったですか。

今回の主催支部・滋賀県支部は校友数650名と小さい支部で、このように盛大に行われたことは流石、近江商人「三方よし～売り手よし、買い手よし、世間よし」の精神で、岩田支部長を中心に滋賀校友の方々が「明治はひとつ」を具現化する形で参加・協力に呼びかけられた結果と感服しております。支部の大小では無く、心の大切さを教えて頂いた大会でした。

大会の内容に多少触れて見ますと9月5日は会議のあと、今大会最高の目玉、前夜祭の琵琶湖クルーズ、ピアノカ・ミンガン2船上での食事、デクシージャズの生演奏・湖上打ち上げ花火、そして3階オープンデッキでの“琵琶湖就航の歌”“明大校歌”を全員で合唱出来、楽しいひと時でした。

9月6日・第51回明治大学全国校友滋賀大会が大津プリンスホテルの大広間に1,200名の校友が集い開催され、来賓に滋賀県知事・三日月大造、大津市長・堀 直美さんを迎えて盛大に行われ、知事からはこれだけの祝賀会を実施するのは1～2回/年程度で、明治大学の素晴らしさを感じるとの祝辞を頂いた。

向殿正男校友会会長一校友会は、明治大学を構成する重要な柱の一つとならなければならない。三長のスクラム一・学長⇒教育・研究、理事長⇒持続

可能な健全な経営、・校友会長⇒社会（外部）からの意見・評価・支援が必要である。・東京中心から全国型、全世界型大学へ、・地方出身者、留学生への奨学金、・母校愛をもって研究者への財政的支援等…校友会の目指す目標が示された。

福宮賢一学長一“世界へMEIJI 8000”

毎年8000人の卒業生に対して、未来開拓力を実現し、優れたグローバル人材を育てるという10年後のプロジェクト、2023年には2人に1人は海外留学、全学生に国際化経験を実施させるという素晴らしい明日の構想が示された。

特別講演は明治大学 OB、長浜城歴史博物館 館長 太田浩二

“日本の歴史を変革した信長・秀吉”近江・戦国時代の特質について

近江を制する者は天下を制する…天下人たちの交差点であった近江の政治的・地理的重要性。更に長浜出身の石田三成が石高制をはじめとした経済システムの導入、これを信長・秀吉・家康と敬称していったこと。近世を形成する武将の多くが近江出身、ゆかりの人物であった。つまり、戦国時代の日本史上の大変革の社会構造の変革は近江から始まったと家系図等を示しながら説明があった。

最後のフィナーレは総勢1200名を超える人が腕を組んで明大校歌で最高の盛上げとなり、参加のコンパニオンも加わり大感激でした。

9月7日は4コースに分かれての滋賀県内観光で、各人戦国時代を思い浮かべながら、歴史の深さに、感動されたことと思います。

このように“明治はひとつ”で盛り上げり、これを成し遂げられた滋賀県校友の人達の“おもてなし”に厚くお礼を申し上げます。

最後に、近年の全国大会は明治大学の飛躍状況を確認すると同時に会場近隣の観光をかねて、校友はご夫妻の参加が増えて来ています、当多摩支部でもこれらを考慮して次回（鳥取大会）は多くの参加をお願いする次第です。

以上

明治大学全国校友滋賀大会に参加して 日野地域支部 江面利和 (昭47年 工)

昨年の新潟大会に次いで2回目の全校大会参加です。昨年も人の多さに驚きましたが、今回の大会は更にスケールの大きさに驚きです。大津で一番大きいプリンスホテルが明治大学校友で貸切になったような感じでした。私は7日午後の本大会から参加しましたが、これだけの大会場は初めての経験です。懇親会場は長さ130m幅20mの大会場で沖縄から北海道の各県支部毎のテーブルで埋めつくされ、端が見えない状況でした。総勢1200名を超える会場は壮観です。



(上の写真は日野・鈴木支部長撮影)

さて、私はフェイスブックで「明治大学紫紺 NET 交流会」に登録していますが、全国の面識のない方々が数多く、写真や出来事を投稿しています。毎日その投稿を見るのも楽しみの一つです。

現実には知らない方々ともこの全国大会で知り合いになるのもまた、有意義な大会です。たまたま6日前夜祭の写真がフェイスブックに載っていて、そこには、多摩支部の沼尻さん、飯田さん

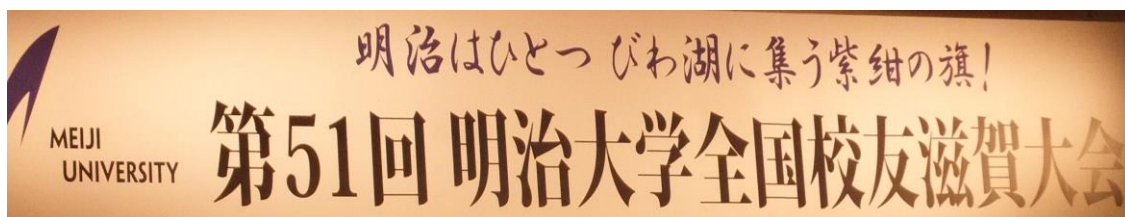


も写っているではありませんか。早速投稿者とフェイスブック上のお友達になりました。7日の懇親会でお会いできるかと、その方のテーブルに伺いましたが、たまたま他支部のテーブルに行っていたようでご挨拶できませんでした。逆に、私を知っている方が「お会い出来ずに残念でした」とフェイスブックに投稿されているのを見つけ、この場は友達の輪を広げるのにも役立っ

ているようです。(写真はミシガン船上の沼尻さん、飯田さん、服部真樹さんのFBより)

8日は本来ならば出勤日ですが、折角の機会ですので休暇をいただき、帰路の途中、近江八幡市を訪れました。大津駅から電車で約30分の距離で、ここから米原駅までも30分位なので丁度中間点のような位置関係です。近江八幡駅から古い町並みが残る新町通りまでの約2.2キロの道をゆっくり歩きました。駅から30分ほどのウォーキングです。幸い傘もささずに済みました。近江八幡に来たのはある目的がありました。名物の「でっち羊かん」をお土産に買うことです。ネットで見ると「和た与」が有名らしいですが、私は地味な店の方が好きなので、「紙平老舗」で購入しました。





絆を深めて 全国校友滋賀大会

町田地域支部

飯田 光宏 (昭39年 法)

はじめに

100回目の全国校友〇〇大会のスタートとなる第51回全国校友滋賀大会が、ここ日本の国土の大きさに比較し大きすぎる程(理事長談)の琵琶湖の畔で盛大に開催された。在住校友数最少規模の滋賀県支部が、よくぞここまでといっでは失礼かもしれないが、本当に素晴らしい企画で、最高級で1200名を超える校友を全国から呼び寄せたのである。近江商人の「三方よし」の理念で「世間の為に汗を流す『心』」をもってこそ成し得た成果と確信いたします。

この滋賀県支部の心意気に近隣の県支部が協調してこの偉業を成し得たことは、まさに「明治ひとつ」の実証であり、「絆」の進化であります。

懇親会2席を振り返りご紹介いたします。

前夜祭 (ナイトクルージング・湖上花火)



遊覧船2隻に分かれての琵琶湖クルージング&湖上花火は素晴らしいの一言。船内ではデキシードジャズの生演奏、はるか遠くの高校時代に女子生徒と手を組んで踊ったフォークダンスを想起す楽曲の数々、おもてなしに酔いました。北海道から沖縄そして大韓民国、台湾から参加された校友が湖上のひと時を楽しみました。

懇親会



間口100mを超え、別端が霞む程の大懇親会場に溢れるばかりの元明大生、ご来賓の三日月滋賀県知事も越 大津市長も、そして我々校友もど肝を、正直、抜かれました。

美味しい料理と上手い酒、ジャズ演奏をバックに飲み語らいました。「明治はひとつ」をそして「絆」を掴み、明治で良かったと実感しました。

(写真提供：鈴木紘一氏・多摩支部日野地域支部長)

正に壮観な全国校友滋賀大会

三鷹地域支部副支部長
高玉 茂男 (

第 51 回明治大学全国校友滋賀大会が、9月5日より行われました。私は今回初めて全国校友大会というものに参加いたしました。

実は私は、来年の多摩支部第 13 回定時総会の実行委員長になってしまい山崎も三鷹支部長から、「行った方が良い」と言われ、急に参加することにしました。

前日は個人的な用があり、6日の式典からの参加となりました。

当日は、残念ながらあいにくの雨でした。それでも校友会会場は多くの校友で一杯でした。あとから、北海道から沖縄までの各都道府県から、更には大韓民国・台湾から 1200 名の参加があったと聞き、驚きでした。

そこに、三日月滋賀県知事や越 大津市長がご来賓として祝辞を述べられました。

又、校友会副会長に北野 大氏という有名人がいることに、ビックリしました。式典の後は福宮明治大学長から「大学の現況」という講演がありました。明治大学は本当に頑張っているなあと思いました。

記念講演は「日本の歴史を変革した信長・秀吉」というテーマで、校友の「長浜城歴史博物館館長」より、大変興味深い話でした。

その後のパーティで、1200 名が一

つの会場に集合するというのは、正に壮観でした。あらためて、校友会の凄さを感じました。

来年は、鳥取で行われるとのこと、一度は経験したいので、是非、皆さま、一緒に行きましょう



(宴も終盤—筆者は写っていません)



左上・・・三日月知事

右上・・・越 市長



大津プリンスホテル



懐かしの琵琶湖畔を訪ねて

八王子地域支部

山上 雅隆 (昭43年 法)

私事ですが、かの地には現役の会社勤務の時代に、当時の関西支店で同じ釜の飯を食った先輩・後輩が沢山おられるので、この機会に合わせて彼らと旧交を温めたいと願い、滋賀大会を楽しみにしていました。

したがって、9月5日(土)～7日(土)の3日間に亘って琵琶湖畔を訪ねたのですが、前夜祭の琵琶湖クルーズや大会翌日の周辺観光には参加できず、その分9月6日(日)の当日のイベントを一日十分に堪能できました。もともと滋賀県支部は、他地区に比べ卒業生が少なかったのですが、近畿地区各支部の応援もあって、国内外から1200名もの校友が参集する盛大な大会になったとのことでした。しかし、何といても、私が敬愛する岩田支部長が、一年位前から上京のたびに、各地区の校友会の催しに精力的に出掛け、滋賀大会のアピールをして回ってコツコツと努力していたことも、特筆されてよいことでしょう。

私は、浜大津のビジネスホテルに宿泊したのですが、当日の朝、部屋の窓から眺めると、眼前の琵琶湖は小雨に煙っておりました。式典・懇親会の開始は午後でしたので、午前中に「三井寺」の近辺を散策し、会場の大津プリンスホテルに向かいました。会場では、校友会多摩支部をはじめ各地域の方々、また雄弁部時代の先輩の方々と、楽しく歓談することができました。

淡海の間というただっ広い宴会場に、地域ごとのテーブルがはるかかなたにまで並び、明大OB・同伴者1200名の熱気が一面に立ち込め、何というパワーでしょう。

いつも立川グランドホテルで開催される私の多摩支部総会は、200名超の参加者で、他地区に比べても規模はピカ一だと思いましたが、今回は丁度この6倍の規模ですから、全く壮観というより他はありません。

明治大学の校友が、卒業後何年経っても、なぜこのように遠方から足を運んでお互いに肩を組み、「白雲なびく駿河台」と高歌放吟したくなるのか。これは皆さんが大学で過ごした時代背景はそれぞれ異なっている、あのキャンパスには、かつて何ものにも束縛されない限りない「自由と可能性」があったからではないでしょうか。そしてこれらの結晶が、近年ますます高まりを見せている母校の「名声」となって、結実しているのだと思います。

このような感激冷めやらぬ大会から帰京して、私たちが冷水を浴びせられる「法科大学院の不祥事」に出くわすことになりました。しかし、明大人はひるむことなくこれを乗り越えて、信頼回復に努めていかななくてはなりません。



全国校友滋賀大会に参加して

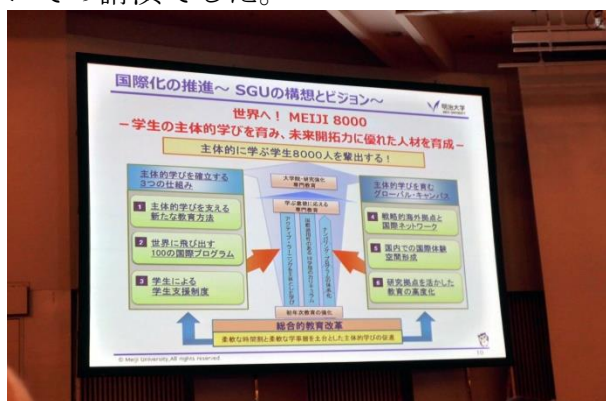
立川地域支部幹事長 守重 芳樹（昭40 工）

立川地域支部からは、橋本地域支部長、小林相談役、渋谷・園田の副支部長そして守重の5人が第1部の記念式典より参加しました。早朝、立川を出発。立川在住の大韓民国支部の曹信虎氏と京都経由で小雨の天津入り、天津駅南口に直結のホテルテトラ天津・京都に荷物を預け、昼食後シャトルバスで会場の大津プリンスホテルに向かった。

県庁所在地のJR大津駅、昼前雨の為か人通りが少ないのにはびっくりしました。

第1部の記念式典は、13時より通常の手順で行われました。来賓の三日月県知事、女性の越大津市長共に若くて二度目のびっくり。

第2部の講演・記念講演は、福宮学長「大学の現況」について、及び長浜城歴史博物館太田館長の「日本の歴史を変革した信長・秀吉」についての講演でした。



(福宮学長 講演資料—撮影鈴木氏)

第3部は2階のコンベンションホール淡海に場所を移し、1200名の参加で、地酒と地元料理を堪能しました。

延暦寺は、滋賀県大津市坂本本町にあり、標高848mの比叡山全域を境内とする寺院。比叡山、または叡山と呼ばれることが多い。平安時代初期の僧・最澄により開かれた日本天台宗の本山寺院である。住職は天台座主と呼ばれ、末寺を統括する。[ウィキペディア](#)



(懇親会アトラクション—撮影 飯田氏)

7日はエスカーション。5名は「坂本・比叡山延暦寺方面の旅」に参加。先ずは、比叡山の麓に鎮座する日吉大社へ。

約2100年前、崇神天皇7年に創祀された全国3800余の日吉・日枝・山王神社の総本宮です。

また伝教大師が比叡山に延暦寺を開かれてよりは天台宗の護法神として多くの方から崇敬を受け、今日に至っています。

比叡山ドライブウェイで西塔釈迦堂へ。法話を拝聴し、延暦寺会館に移動し、精進料理の昼食、自由散策で国宝根本中堂に参拝し、15時過ぎに京都駅にて解散となった。

京都駅の構内の焼き鳥屋で2時間以上の大宴会、立川に21時半頃着、無事解散となりました。

楽しい2日間の旅でした。



(国宝 根本中堂—撮影 筆者)

第51回 明治はひとつ びわ湖に集う紫紺の旗!

明治大学全国校友 滋賀大会

びわ湖の畔、大津プリンスホテルで開催
びわ湖上でピアンカ・ミシガン船上前夜祭



日本最大の湖
びわ湖

明治大学全国校友
滋賀大会
実行委員会
〒520-0051 滋賀県大津市
大津プリンスホテル
〒520-0051 滋賀県大津市
大津プリンスホテル
〒520-0051 滋賀県大津市
大津プリンスホテル

平成27年 9月5日	土	エクスカーション	①コース 瀬田ゴルフコース 北コース (日帰り) 15時30分集合(大津プリンスホテル) 16時30分～19時00分
			②コース 大津プリンスホテル プリンズホール(3階) 14:30～
			③コース 湖上 前夜祭 17:30～19:45 ピアンカ、ミシガンにて湖上航行 大津プリンスホテル
平成27年 9月6日	日	エクスカーション	①コース 石山寺吉祥と皇白の旗 (日帰り) 15時30分集合(大津プリンスホテル) 16時30分～19時00分
			②コース 第1部 記念式典 13:00～ 大津プリンスホテル プリンズホール(3階)
			③コース 第2部 昼食・記念演奏 14:20～ 大津プリンスホテル プリンズホール(3階)
			④コース 第3部 懇話会 17:00～19:00 大津プリンスホテル コンベンションホール(2階)
平成27年 9月7日	月	エクスカーション	①コース 坂本・比叡山・琵琶湖方面の旗 (日帰り) 15時30分集合(大津プリンスホテル) 16時30分～19時00分
			②コース くるっと びわ湖の旗 (日帰り) 15時30分集合(大津プリンスホテル) 16時30分～19時00分
			③コース 長浜・彦根方面の旗 (日帰り) 15時30分集合(大津プリンスホテル) 16時30分～19時00分
			④コース 近江八幡・安土方面の旗 (日帰り) 15時30分集合(大津プリンスホテル) 16時30分～19時00分

明治大学
国学院大学
同志社大学
立教大学
法政大学
早稲田大学
明治学院大学
同志社女子大学
立教女子大学
法政女子大学
早稲田女子大学
明治学院女子大学

第51回 明治はひとつ びわ湖に集う紫紺の旗!

明治大学全国校友 滋賀大会

明治を創する者は
天下を創す
ぜひご参加を!

近江の国へ

平成27年(2015年)
9月5日(土)・6日(日)

会場 大津プリンスホテル

お申し込み窓口
JTB日本大津支店
520-0051
滋賀県大津市 電話1 3 244-エクス大津ビルF
TEL:077-522-4162 FAX:077-522-2911

明治大学校友会 滋賀県支部 事務局・「明治はひとつ」滋賀大会実行委員会 (幹事: 大津市、長浜市、彦根市、近江八幡市、安土町)

参考資料目次

大会次第	1
講演会次第	2
歓迎のご挨拶	3
校友会長 挨拶	4
理事長 祝辞	5
学長 祝辞	6
滋賀県知事 祝辞	7
大津市長 祝辞	8
第52回 全国校友鳥取大会のご案内	9



第51回 明治大学全国校友滋賀大会

式典次第 日 時:平成 27 年 9 月 6 日(日) 13:00 ~
会 場:大津プリンスホテル3階 プリンスホール

第 1 部 記念式典 (13:00 ~ 14:15)

オープニング

大会旗入場

旗 手
明治大学応援団昭和39年度団長 山岡正勝 (S40年 法卒)

国歌斉唱

校歌斉唱

物故校友への黙禱

開会宣言

滋賀県副支部長 井島 均

歓迎の挨拶

滋賀県支部長 岩田守弘

来賓紹介

大学役職者紹介

校友会役員紹介

大会会長挨拶

明治大学校友会会長 向殿政男

祝辞

学校法人明治大学理事長 日高憲三

祝辞

明治大学長 福宮賢一

来賓祝辞

滋賀県知事 三日月大造

来賓祝辞

大津市長 越 直美

来賓祝辞

明治大学連合父母会会長 川本正信

全国支部長代表挨拶
(次年度全国校友大会開催県)

鳥取県支部長 三保文嗣

祝電披露

万歳三唱

明治大学校友会会長 向殿政男

学校法人明治大学理事長 日高憲三

閉会の挨拶

滋賀県副支部長 上田唯男

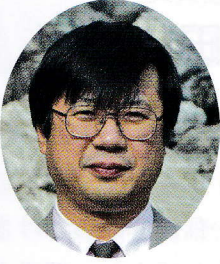
第2部 講演・記念講演 (14:25 ~ 16:10)



■ 講演

明治大学の現況

講師 福宮賢一 (明治大学長)



■ 記念講演

日本の歴史を変革した信長・秀吉

講師 太田浩司 (文学部〈院〉卒)

長浜城歴史博物館 館長

【プロフィール】

昭和36年10月、東京都世田谷区生まれ。昭和59年3月明治大学文学部史学地理学科日本史学専攻卒業。昭和61年3月明治大学大学院文学研究科(史学専攻)博士前期(修士)課程修了。昭和61年4月から長浜城歴史博物館に学芸員として勤務。

懇親会次第

日時:平成27年9月6日(日) 17:00 ~ 19:00

会場:大津プリンスホテル コンベンションホール淡海(2階)

オープニング

歓迎の挨拶

実行委員長

園田英次

鏡開き

乾杯

明治大学校友会会長 向殿政男

次年度開催県アピール

明治大学校友会鳥取県支部

校歌斉唱

明治大学応援団 OB

閉会の挨拶

滋賀県支部長

岩田守弘

※終了は19:00を予定していますが前後する場合があります。

歓迎のご挨拶



明治大学校友会
滋賀県支部長

岩田 守弘

“明治はひとつ びわ湖に集う紫紺の旗！”の合言葉のもと、全国各地そして韓国・台湾から1,000名を超える多数の校友をお迎えすることができました。先ずもって皆様のお越しを滋賀県支部・実行委員会を代表して感謝と共に心から歓迎申し上げます。

本日ここに第51回全国校友滋賀大会を三日月大造滋賀県知事、越直美大津市長、川本正信明治大学連合父母会会長をご来賓としてお迎えし、また日高憲三学校法人明治大学理事長、福宮賢一明治大学長はじめ大学関係役職者各位ご列席のもと盛大に開催できますことは真にご同慶に堪えないところであります。

特に今回は、第51回ということで節目の大会であります。我国悠久の歴史回廊の中で常に重要な位置を占めてきたここ滋賀～近江の地で明治大学校友会の半世紀にわたる伝統の行事をつなぎ、次なる100年に向けての新たなスタートともいえる大会を開催できますことは大変意義深く、また真に光栄なことであります。

今大会開催にあたり、私共は次の三つのコンセプトを設定させていただきました。

先ずは「びわ湖」と周辺の美しい自然や景観です。芭蕉は生涯に詠んだ一千首余りの句のうち実に約1割を当地でものしています。俳聖も愛でた近江の風情をお楽しみ下さい。

次いで信長や秀吉に代表される「戦国の歴史」や比叡山・延暦寺に象徴される「仏教文化」です。根本中堂、安土城跡、彦根城など数多くの国宝・文化財や史跡のほか、人口割で全国平均の4



第51回
明治大学全国校友滋賀大会
実行委員長

園田 英次

倍近く勿論トップの寺院の多さなどに往時を偶んで下さい。

三つ目にそうした厚い信仰心に裏づけされた近江商人の「三方よし～売り手よし、買手よし、世間よし」の精神です。当事者同士に世間という視点を加えた考え方は決して商いの道だけにとどまらず、現代社会、それも色々な分野で立派に通用するものとしてご理解いただければ幸いです。

処で登録校友数僅か650名余りの当支部が敢えて全国大会にチャレンジしましたのは、おこがましいことではありますが、近年地方からの志願者が減少傾向にあり、特に滋賀県は地元および京阪神の大学へ集中する中、大会開催を通じ明治大学パワーを全県下にアピールすることにより母校の知名度アップ、ブランド力向上、ひいては志願者数増加に少しでも結びつけばという願いからでありました。

最後になりましたが、そうした私共の思いに共感いただき、支援委員会を組織し物心両面にわたって絶大なご支援を賜りました関西五府県支部の皆様、また日頃から親しく交流し友好関係にある各支部および父母会、さらに多くの関係の皆様からも思いもかけぬあたたかいお力添えをいただき大きな励みとなりました。そして、まさしく「明治はひとつ」を具現化する形でご参加・ご協力をいただきました向殿会長はじめ校友の皆様お一人おひとりにあらためて心からの感謝の言葉を申し述べ歓迎およびお礼のご挨拶とさせていただきます。

大会会長挨拶



明治大学校友会
会長

向殿 政男

待ち望んでいた今年度の全国校友大会が、滋賀県で開催される運びとなりました。ここに至るまでの多くの関係者の皆様がた、特に、岩田守弘支部長をはじめとする滋賀県支部や近隣支部の皆様や関係する校友の方がたのご尽力に対して、深く感謝申し上げます。

メディア等でも大きく取り上げられておりますが、母校明治大学は、現在、大変な人気を誇っており、受験生はもちろんのこと、現役学生、ご父母、校友の皆様にも、大好評を以て受け入れられております。

53万名余を数える校友が、日本全国はもとより、世界を舞台にビジネス・芸術・スポーツなど、あらゆるシーンで活躍する校友が増えてきました。また世界各地の海外紫紺会等、校友団体の組織化も進む中、本学は大学間競争を勝ち抜くべく、あらゆる分野でグローバルな大学として認知されています。

卒業生として、これらのことに対する評価を頂いていることは、大変光栄なことであり、名誉ある大学であることを強く実感させられます。これもひとえに、長年にわたる大学の教職員、経営陣、現役の学生等大学関係者の懸命なご努力のたまものではありますが、更に加えて、校友である皆様がたのご活躍による社会的評価の結果であり、ここに敬意を表する次第です。

校友会の目的は、大学を支援し、賛助することです。その活動を通して卒業生同士の親睦をはかることです。その中で校友会の役割は、母校が発

展・充実するよう、そして、後に続く学生が各人の夢を実現して社会に貢献できるように支援することです。私たち校友は、その活躍・貢献により、明治大学の名声を上げることに寄与しております。校友の各方面における活躍こそが、母校を支援し、「明治愛」を紡いでいくことにつながるのです。そして「明治ファミリー」として明治大学関係者が一体となり絆を深め、母校の益々の発展に貢献するという一点で皆が一致協力し、団結することが、私が掲げるスローガン「明治はひとつ」を意味しております。

これらを実現させるためには、母校と校友同士の間の情報の共有は極めて重要です。現在、校友会では、ホームページやネットワーク等の情報・通信技術（ICT技術）を使った情報の共有システムを構築しつつ、今以上に若手や女性を巻き込み活性化させていくことで、持続性のある校友会活動に向けた改革に努めております。引き続き皆様のご協力とご支援をお願いする次第です。

全国校友大会は、これからの校友会を躍進させていくために、母校への支援と貢献することを誓い、懐かしい校友同士の友情を確認し、親睦を深め合うための絶好の機会です。今年は、ここ滋賀県で、“明治はひとつ びわ湖に集う 紫紺の旗！”をコンセプトとしたこの大会を、是非とも盛り上げていきましょう。

滋賀大会の成功を、そしてご来場の皆様、関係各位の益々のご多幸と母校明治大学のさらなる発展を、心より祈念申し上げます。

校友の皆さまとともに、世界へ



学校法人 明治大学
理事長

日高 憲三

『明治はひとつびわ湖に集う紫紺の旗!』の呼びかけのもと、51回目となる全国校友滋賀大会が、向殿会長、岩田滋賀県支部長をはじめ、校友会の皆さまのご尽力により、盛大に行われることを、心からお祝い申し上げます。また、日頃から、校友の皆さまには、母校の発展のために、多大なるご支援、ご協力を賜っていることを、あらためて御礼申し上げます。

ここ、滋賀県は、琵琶湖の水運、旧街道に沿った陸運と、日本の交通の要衝に位置し、比叡山延暦寺、安土城、彦根城をはじめとした数多くの歴史的建造物があり、自然と文化、そして歴史の調和した地域であります。近年、日本の現代の姿を、幕末・明治維新、第二次世界大戦後と比較して、「第三の開国」とたとえられることがありますが、江戸時代末期に、日本国の開国にご尽力されたのは、ご当地、彦根藩主の井伊直弼公でございました。明治大学は、昨年、スーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、開国の時を迎えましたが、その時期に、校友大会を滋賀県で開催されることを何かのご縁と感じています。

さて、日本は、少子化がますます進行し、グローバル化、情報化社会の進展とともに、社会構造が大きく変化しています。日本の経済成長が鈍化し、成熟社会となる一方で、世界の国々の経済発展は目覚ましく、世界における日本の果たす役割も変わりつつあります。そのため、人材育成はますます重要となっており、明治大学は高等教育機関として、日本の発展のため、その一翼を担っていかなくてはなりません。

本学は、2011年に、学校法人明治大学長期ビジョンを策定し、10年後の明治大学の姿を「世界

へ 国際人の育成と交流のための拠点 世界で活躍する強く輝く『個』を育てる教育研究の実現」と、掲げました。そして、2008年にグローバルCOEプログラム採択、国際化拠点整備事業採択（グローバル30、2009年）、学校法人国際大学と系列法人化に関する協定の締結（2013年）、タイ・バンコクにアセアンセンター開設（2013年）と、教育・研究活動の国際化を進めてきました。一方で、校友会も大学の国際化とともに、海外主要地域の卒業生組織となる海外紫紺会の結成にご尽力をいただいております。その成果は、2012年以降の3年あまりで12の紫紺会の誕生に繋がり、17団体（2015年8月現在）が活動しております。私も海外紫紺会の代表者としてのお話を通じて、校友の皆さまの世界各地でのご活躍を伺うと、たいへん心強く感じています。このような、明治大学を中心としたヒューマンネットワークは、本学の最大の財産である、53万人を超える校友の力であり、本学の社会における評価は、校友の皆さまの活躍の賜物であります。

明治大学は、長期ビジョンの実現のため、2014年に中期計画を策定し、数値目標の設定と、目標達成に向けたロードマップを発表しました。私たちは、母校の発展のため、これまで以上にスピード感をもって大学改革を推進してまいります。「世界で活躍する強く輝く『個』を育てる教育研究の実現」のために、校友の皆さまには、引き続き、厚いご支援、ご協力をお願いする次第です。

結びに、校友会のさらなる発展と校友の皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

さらなる高みとともに目指して



明治大学長

福宮 賢一

琵琶湖の水面に映る日差しに秋の訪れが徐々に感じられるこの頃、第51回明治大学全国校友滋賀大会が盛大に開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。昨年新潟県で行われました区切りとなる50回大会から伝統の襷を受け継いで開催される本大会は、次の10年、さらにはその先の50年に向けた未来への一步を踏み出していく意義深い大会であります。このような第2のスタートとも言うべき本大会が無事に迎えられるのも、労苦を厭わず企画・運営に奔走いただきました、およそ650名の滋賀県校友会員をはじめとする関係者の皆さまのご尽力の賜物でございます。あらためまして心より感謝を申し上げます。

湖国「近江」は、琵琶湖を中心に湖北・湖南・湖東・湖西の各地域が長年にわたり発展を遂げ、多様な歴史・文化が育まれてきました。古代には都が置かれ、また、陸運・水運の交通の要衝として栄えてまいりました。この交通の要衝の一翼を担ったのが、滋賀県出身であり、本学のOBでもある安原仁兵衛氏であります。昨年40周年を迎えたJR湖西線の開業につながる江若鉄道の敷設に多大なる貢献をされました。現在の関西と北陸の人的交流・経済交流の一端を構築した同氏の行動力の背景には、ここ滋賀県の独自の風土で培われた気質のみならず、本学での学びによって養われた自らの力で次代を切り拓いていく力、まさに、本学の建学の精神「権利自由」「独立自治」を体現する力も大きく寄与したものと推察しております。

現在、本学は「次代を拓き、世界へ発信する大学」の学長方針のもと、不断の大学改革に取り組んでおります。昨年9月には、本学の構想「世界へ！ MEIJI 8000—学生の主体的学びを育み、未来開拓力に優れた人材を育成—」がスーパーグロー

バル大学創成支援事業に採択されました。本採択は本学にとっても大きな転換点であり、さらなる国際化へ向けた原動力としていかなければなりません。そのためにも、新しい時間割と柔軟な学事暦を2017年度から導入することで、本構想の土台ともいえる総合的教育改革を着実に展開してまいります。そして、教育の質的転換とアクティブ・タームを活用できる環境を整備し、主体的学びを育む機会を確立していくことで、混迷の時代をしなやかにたくましく生き抜くための「未来開拓力」に優れた卒業生～MEIJI 8000～を世界に輩出していく所存です。

他方、研究面では、5年前と比較してほぼ倍増の伸びを示している科学研究費助成事業をはじめ、共同研究資金においても、私大トップクラスの資金を獲得しております。本学教員が持つ研究力とその成果に対する社会的評価は、年を追うごとに高まっております。最先端の研究成果を教育活動ならびに社会貢献活動に還元していくことで、新たな明治大学の姿を築いてまいります。

「近江を制する者は天下を制す」との言葉がございましたが、ここ近江の地において、天下に冠たる明治大学の心意気を新たにし、トップ・ユニバーシティとなるべく、さらなる高みを目指してまいります。

結びにあたり、校友の皆さまにおかれましては、昨年創設されました「つなげ！紫紺の“たすき”」奨学金に多大なるご支援を頂戴するなど、日頃より、格別なるご配慮を賜りまして、厚く御礼申し上げます。「明治はひとつ」の合言葉とともに、皆さまのますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

滋賀県知事のご挨拶



滋賀県知事

三日月 大造

このたび、第51回明治大学全国校友滋賀大会が、ここ滋賀県大津市で盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。国内外からご参加の皆様、日本一の湖「琵琶湖」をはじめ豊かな自然と歴史文化あふれる滋賀県へようこそお越しくださいました。心から歓迎申し上げます。近畿圏での大会開催は13年ぶり、また滋賀県では初めての開催と伺っております。ご滞在中、湖国・滋賀の魅力をぜひ満喫していただきたいと思っております。

明治大学は1881年に『権利自由』『独立自治』を建学の基本理念として設立されて以来、130年を超える伝統の中で、「質実剛健」「新しい知の創造」「時代の要請」に応える多くの人材を輩出してこられました。今日お集まりの皆様をはじめ、国内外でご活躍されている「校友」の皆様が、その絆を大切にされ、活発な交流を続けておられることに敬意を表します。

さて、今大会のご案内にもありますとおり、滋賀県はかつて近江の国と呼ばれ、戦国時代には、「近江を制するものは、天下を制す」と言われるほど、織田信長をはじめ多くの武将が覇権を争い、競い合う舞台となりました。

その華々しい歴史物語の一方で、古代から、「水の浄土」としての琵琶湖に臨むこの地には、世界遺産の比叡山延暦寺に代表される多くの寺社が建立されました。今年4月には「琵琶湖とその水辺景観一祈りと暮らしの水遺産」が

日本遺産として認定され、琵琶湖の水と人々が織りなす文化は、今日も多くの人々の心を魅了してやみません。

これから収穫の秋を迎えるにあたり、湖国・滋賀では伝統あるお祭りが各地域で行われ、お囃子に合わせて人々がともに祝い、自然の恵みに感謝を捧げます。この豊かな暮らしを将来の世代に引き継いでいくためにも、滋賀県では「新しい豊かさ」を掲げ、「今」だけ「物」だけ「自分」だけでなく、「心」の豊かさを実感できる取組を進めているところです。国内外の明治大学校友の皆様とともに、「高き理想の道」を求め歩んでまいりたいと考えています。

結びに、今大会の開催にご尽力いただきました明治大学校友会滋賀県支部の皆様をはじめ、関係の方々に深く敬意を表しますとともに、明治大学校友会の益々の発展にご参加いただきました皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



毎年10月に開催される大津祭の曳山

祝 辞



大津市長

越 直美

第51回明治大学全国校友滋賀大会が、全国各地から多くの校友の皆様をお迎えし、「湖都」大津市において盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく、大津市民を代表して心より歓迎申し上げます。

明治大学は、明治14年に近代国家としての自立が急務とされる中、3人の青年法律家によって明治法律学校として創立されました。わが国近代の草創期に「わが国の近代市民社会を担う聡明な若者を育てたい」という3人の熱い想いのもとに創立されて以来、134年という古い歴史や伝統を有し、今では10学部、28学科を有する国内屈指の総合大学であり、50万人を超える卒業生の方々が政財界をはじめ、文化・スポーツなど国内外の様々な分野でご活躍されておられます。

また、校友会の会員の皆様におかれましては、「明治はひとつ」の精神のもと、母校の発展・充実はもとより、後に続く学生が各人の夢を実現して地域社会へ貢献できるよう、一層の支援・賛助にご尽力されておられるとのこと、まさに建学当時の熱い想いが絶えること無く、今に受け継がれていることを実感するとともに、卒業生の皆様の強い絆と母校への深い愛情に対し、心から敬意を表する次第です。

大津市は、本州のほぼ中央にあり、日本最大の湖「びわ湖」の南西に広がる滋賀県の県庁所在都市です。比良の山並みや白砂青松の湖畔に代表される自然の魅力と、県都として培われてきた都市の活力、豊かな歴史と文化に彩られた恵み豊かな都市です。また、京都市に隣接しており、JR京都駅から大津駅及び大津京駅まで約10分とアクセスも大変よく、京阪神からもお気

軽にお越しいただけます。

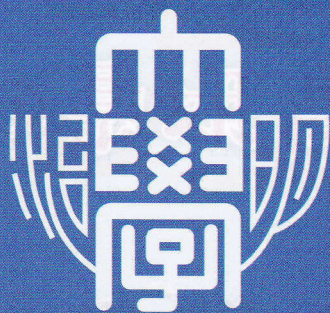
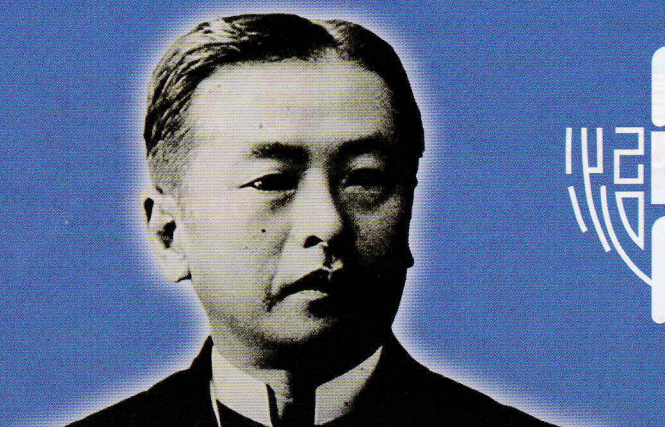
大津の歴史は古く、667年に天智天皇が近江大津宮に都を移して以来、びわ湖を支配する要所として、また東海道の五十三番目の宿場町として栄えてきました。さらには、世界文化遺産の「比叡山延暦寺」や紫式部ゆかりの「石山寺」など、各時代を代表する多くの歴史文化遺産が今に引き継がれており、平成15年10月には全国で10番目となる古都保存法に基づく「古都」指定を受け、国指定文化財は全国第3位の件数を誇っています。

また、本市には、およそ1200年前に比叡山の伝教大師最澄によって開湯された「おごと温泉」や「石山・南郷温泉」がありますので、ぜひ旅の疲れをゆっくり癒していただければと存じます。

本市では平成27年度を「インバウンド元年」と位置付け、外国からの観光客の誘致を推進しており、特にこれまでの実績を踏まえて台湾への観光プロモーションに力を注ぐとともに、豊かな自然と数多くの歴史・文化遺産、それらが育む温かい人情あふれる本市の魅力の世界へ発信してまいりたいと考えております。

本大会にお越しいただいた皆様におかれましては、ぜひこの機会に本市の多様な魅力をご堪能いただき、お楽しみいただければと思います。

結びに、開催にあたりご尽力されました関係各位に深く敬意を表しますとともに、明治大学並びに明治大学校友会の益々のご発展と、ご参加の皆様方のより一層のご健勝を心から祈念申し上げます。私からの歓迎とお祝いのご挨拶といたします。



来なんせ、鳥取!

創立者 岸本辰雄先生のふるさとへ

第52回

明治大学全国校友 鳥取大会

2016(平成28)年

11月12日・13日

前夜祭

ホテルモナーク
鳥取

大会

とりぎん文化会館
梨花ホール

懇親会

ホテルニューオータニ
鳥取



大山



松葉ガニ



二十世紀梨



お申込窓口

JTB 中国四国鳥取支店 TEL 0857-22-8851
〒680-0846 鳥取市扇町 60 FAX 0857-24-7228